

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：ケニア	案件名：血液スクリーニングセミナー
分野：保健・医療	援助形態：第三国集団研修
所轄部署：医療協力部医療協力第二課	協力金額：約2.65億円
協力期間	1998年～2002年度
	先方関係機関：ケニア中央医学研究所 (Kenya Medical Research Institute：KEMRI) 日本側協力機関：無
他の関連協力：プロジェクト方式技術協力「感染症対策プロジェクト」 プロジェクト方式技術協力「感染症対策プロジェクトフェーズ2」	
<p>1-1 協力の背景</p> <p>ケニア中央医学研究所 (Kenya Medical Research Institute：KEMRI) は、ケニアの中心的な医学研究所である。我が国は1990年5月より96年4月まで感染症対策プロジェクトを通して、肝炎・下痢症等の研究に対し協力を実施してきた。ウイルス性肝炎の診断キットの研究開発及び現地での大量生産について技術移転を行ない、現在当該診断キットはケニア保健省の正式な許可を得て、製造・販売が認められている。</p> <p>ケニア政府は、このプロジェクトの成果を踏まえ、同国における最重要課題であるエイズと、小児の主な死因である急性呼吸器感染症 (Acute Respiratory Infection：ARI) 等の対策について、引き続き我が国に協力を要請し、96年6月からHIV/AIDS、ウイルス性肝炎、ARIの基礎研究の発展、及びこれらの研究成果をケニアの感染症対策 (疾患の早期発見及び安全な血液の供給) に反映させることを目的としたプロジェクト方式技術協力「感染症プロジェクトフェーズ2」が実施されている。</p> <p>その一方で、ケニアだけではなく、他のアフリカ諸国においても、ウイルス性肝炎及びHIV/AIDSの患者の増加が見られ、疾患の診断技術の向上、安全な血液の供給が急務となっている。特に輸血の際に血液スクリーニング検査はいずれの国においても絶対条件となっているが、その検査に関する規定や診断能力は国によってはもちろんのこと、医療 (検査) 機関によっても異なっており、我が国政府とケニア政府はその格差を埋め、血液の安全性を高める必要があると認識している。</p> <p>このような状況を踏まえて、KEMRIに対する長期の協力の成果を生かし、周辺国にウイルス性肝炎及びHIV/AIDSの血液による検査診断技術を普及するため、血液スクリーニングセミナーを実施した。</p>	
<p>1-2 協力内容</p> <p>研修参加国の感染症等に関する疾患診断技術の向上と安全な血液供給知識のために、輸血及び血液スクリーニングに関連する医療関係者に対し、ケニアにおいて研修を実施した。</p> <p>(1) 上位目標</p> <p>研修参加国において輸血に安全な血液が用いられる。</p> <p>(2) プロジェクト目標</p> <p>研修参加者が血液スクリーニングの知識・技術を向上させ、また、血液スクリーニングの自国における制度化・能力向上に貢献する。</p> <p>(3) 成果</p> <p>1) 研修参加者が多様な血液スクリーニング技術を通じ、血液の安全性の理論と基準について理解する。 2) 血液スクリーニング検査および評価の技術を習得する。</p> <p>(4) 投入</p> <p>日本側： 短期専門家派遣 10名 相手国側 (ケニア)： カウンターパート (研修参加者) 配置 46名 ローカルコスト負担 (約0.13億円)</p> <p>(5) 研修参加国</p> <p>ボツワナ、エテチオピア、エリトリア、ガーナ、レソト、マラウイ、ナミビア、ナイジェリア、セーシェル、南アフリカ、スワジランド、ウガンダ、タンザニア、ザンビア、ジンバブエ、モーリシャス、ケニア</p>	
2. 評価調査団の概要	
調査者	JICAケニア事務所 (現地コンサルタント：Reachout Consultancies Ltd.に委託)
調査期間	評価種類：在外終了時評価
3. 評価結果の概要	
<p>3-1 評価結果の要約</p> <p>(1) 妥当性</p> <p>研修参加国 (ケニアを含むサハラ砂漠周辺諸国) ではHIV/AIDSとウイルス性肝炎が最も流行している感染症であり、スクリーニングしていない血液の輸血が感染の第二の原因となっており、各国にとってその対策が共通の課題となっている。本プログラムにおいては、その血液スクリーニングのセミナーを実施したわけであるが、研修参加者へのアンケート調査結果をみると、本研修の妥当性について、「とても妥当性が認められる (Strongly agree) (46%)」、「妥当性が認められる (Agree) (46%)」と9割以上が妥当性を認める回答をしている。また、KEMRIの第一の使命はHIV/AIDS、ウイルス性肝炎などの感染症の減少を確実にすることであり、血液検査のための診断キットの開発を行っている。KEMRIの目指すところは、本プログラムの目標である「血液の安全性を高める」ことと一致している。</p> <p>(2) 有効性</p>	

以下の内容から、本プログラムの有効性は概ね認められる。

- 1) 研修参加者へのインタビューの結果、回答者の100%が血液の安全性に関する知識を「満足できる (Satisfactory)」レベル以上習得したと自己評価しており、またウィルス性肝炎検査 (HapCell II tests) の実施準備やHIV/AIDS検査 (HIV-PA tests) 結果の解釈という項目でも9割以上が「満足できる (Satisfactory)」レベル以上に達していると判断している。
- 2) 研修コース全般への評価は78名中約9割が「とても良い (Strongly agree) (53%)」もしくは「良い (Agree) (36%)」としており、概ね良かったと言える。
- 3) 他方、15%が、実地研修について「不十分 (inadequate)」と評価しており、本プログラムの終了時期に近づいていくとともに、研修参加者の満足度が低下している。

(3) 効率性

以下の通り、講師や講義内容について大きな問題は見られていないが、研修参加者の選定や資金提供について、研修実施におけるプロセスの問題点を指摘している。

- 1) 研修参加者の選定：大部分の研修参加者は研修コースに参加する要件を満たしていたが、血液検査を実施する者として不適格な者がみられたり、研修コースの取りまとめ役が各国とのやりとりを十分に行なえず、血液銀行機能に関する講義に参加できない者がいたり問題点があった。
- 2) カリキュラム：講義内容は幅広くカバーし、適切で、わかりやすいものであった。また、実地研修については、実際に血液スクリーニング検査を行ったが研修参加者から時間数がやや不足との指摘があった。
- 3) 講師：KEMRI・民間企業・ナイロビ大学・関係NGO・国連という様々な団体から血液の安全性に詳しい講師を招致し、全てのコースにおいて適切にファシリテーターが配置・支援を行なったため、講義の質が高く保たれた。
- 4) 資金提供：JICAとKEMRIとの会計処理のしくみの違いから適切な時期に送金が行われなかったため、必要な教材やサービスがタイミング良く提供されてなかったケースがあった。

(4) インパクト

- 1) 研修参加者へのアンケートの結果、回答者の54%が血液の安全性確保について大きな向上をもたらしたとしている。ただし、この割合は半数弱であるため、十分であるとはいえないが、上位目標の達成につながる成果が得られた。
- 2) 研修参加者の上司へのアンケートの結果、帰国した研修参加者の「血液の安全性についての知識」、「血液スクリーニング検査の準備」、「検査結果の解釈・報告」について、9名の回答者のうち、7名が「知識や技術の向上が認められる」としている。また、5カ国については、所属組織の血液スクリーニングのレベルが向上したと評価している。

(5) 自立発展性

研修参加者の多くが帰国した後、研修を通じて得た知識や技術について、職場の同僚に教えるなどしている。

3-2 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

該当なし

(2) 実施プロセスに関すること

該当なし

3-3 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

該当なし

(2) 実施プロセスに関すること

該当なし

3-4 結論

本研修は、研修実施機関の保健分野の研究開発成果である検査キット、研究の途上で得られた知識・技術を普及するという観点で、特徴的な第三国研修であった。研修という手段をとったことは現実的であったが、研修参加国の側の本研修の提供する内容について、またKEMRIで製造された検査キットへのアクセスがあるかどうかについては、興味を示す国は多いものの事前に十分確認されたとはいえない。他方、研修自体については研修参加者からの評価を得ており、血液スクリーニングの研修を実施したことに対する成果は認められる。

3-5 提言 (当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言)

- (1) 血液の安全性についての技術的な問題と、それに対しいかに対処していくのかを検討するために、各国の政策担当者や技術担当者が議論し、本研修を継続して内容の改善をしていくべきである。
- (2) KEMRIとJICAは本分野において人材育成に取り組む関係者とのネットワークをつくり、血液検査における技術的な解決が図れるように、先頭に立って取り組んでいく必要がある。
- (3) KEMRIに対する長期の協力の成果を生かし、周辺国にウィルス性肝炎及びHIV/AIDSの血液による検査診断技術を普及するため、政策担当者、地域のJICA担当官、血液検査サービスを行なう利害関係者に対する地域レベルのフォーラムをフォローアップ活動として実施すべきである。
- (4) 継続した研修によるインパクトを得るために、研修参加国よりさらなる研修参加者を受け入れるべきであり、またKEMRIで開発した検査キット以外に研修参加国入手可能なキットについても研修の対象とすべきである。

3-6 教訓 (他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄)

該当なし

3-7 フォローアップ状況

該当なし

